

令和8年度 可児市介護に関するアンケート調査報告書概要版

1 調査の概要

(1) 調査の目的

「第10期可児市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定にあたり、高齢者の生活や健康の実態等を把握し計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 調査対象

	介護予防・日常生活 圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護人材実態調査
調査対象者	要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者 (一般高齢者、介護予防・ 日常生活支援総合事業対 象者、要支援者)	在宅で生活している要支 援・要介護認定者の内、更 新申請・区分変更申請に 伴う認定調査を受ける方	可児市内のすべての施 設・通所系、及び訪問系の サービス事業所
調査票配布数	2,822 件	郵送:712 件 聞き取り:155 件	126 事業所
調査方法	郵送による配布・郵送及 び Web 回答による回収	郵送配布・郵送回収、また は認定調査員による聞き 取り調査	メールによる案内・回収
調査期間	令和8年1月16日～ 令和8年2月6日	郵送:令和8年1月16日 ～令和8年2月6日 聞き取り:令和7年12月 ～令和8年2月	令和8年2月19日～ 令和8年3月31日

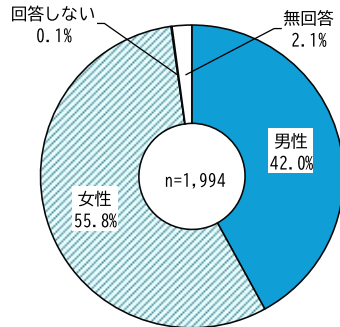
(3) 回収結果

		介護予防・日常生活 圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護人材実態調査		
				訪問系事業所票	施設・通所系 事業所票	訪問系職員票
配布数		2,822 件 100.0%	郵送:712 件 聞き取り:155 件	28 事業所	98 事業所	—
回収数	郵送	1,835 件 65.0%	390 件 54.8%	-	-	-
				-	-	-
	Web/ メール	165 件 5.8%	-	10 件	46 件	78 件
			-	-		
	聞き取り	-	155 件	-	-	-
		-	-	-	-	-
有効		1,994 件 70.7%	545 件 -	10 件 -	44 件	78 件
無効		6 件 0.2%	1 件 -	0 件 -	2 件 -	0 件 -

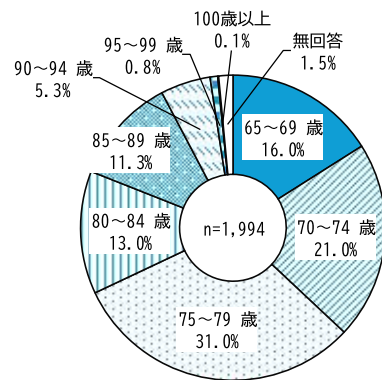
2 回答者の属性

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

■性別

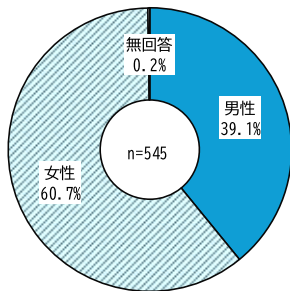


■年齢

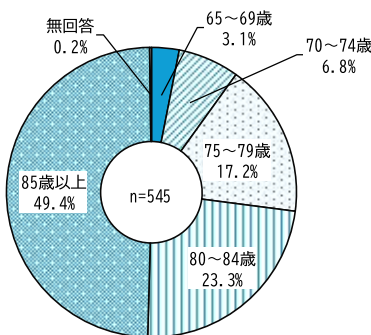


(2) 在宅介護実態調査

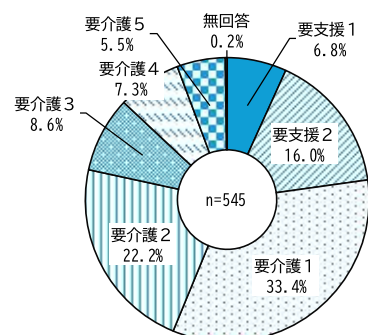
■性別



■年齢



■認定されている介護度

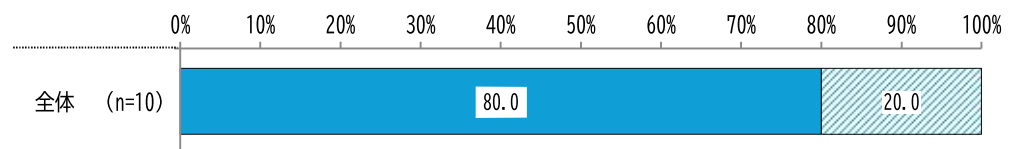


(3) 介護人材実態調査

■サービス種別

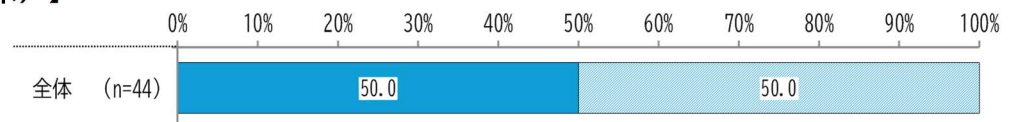
【事業所票（訪問系）】

- 訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、夜間対応型訪問介護、訪問型サービス（総合事業））
- 小規模多機能型居宅介護
- 看護小規模多機能型居宅介護
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護



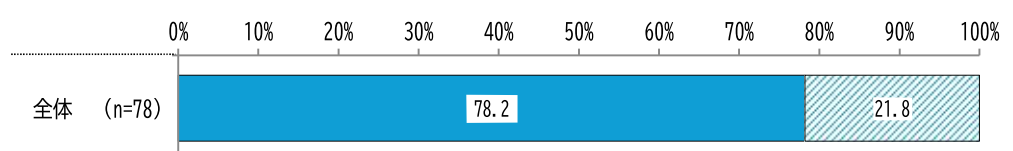
【事業所票（施設/通所系）】

- 施設・居住系サービス
- 通所系サービス



【職員票（訪問系）】

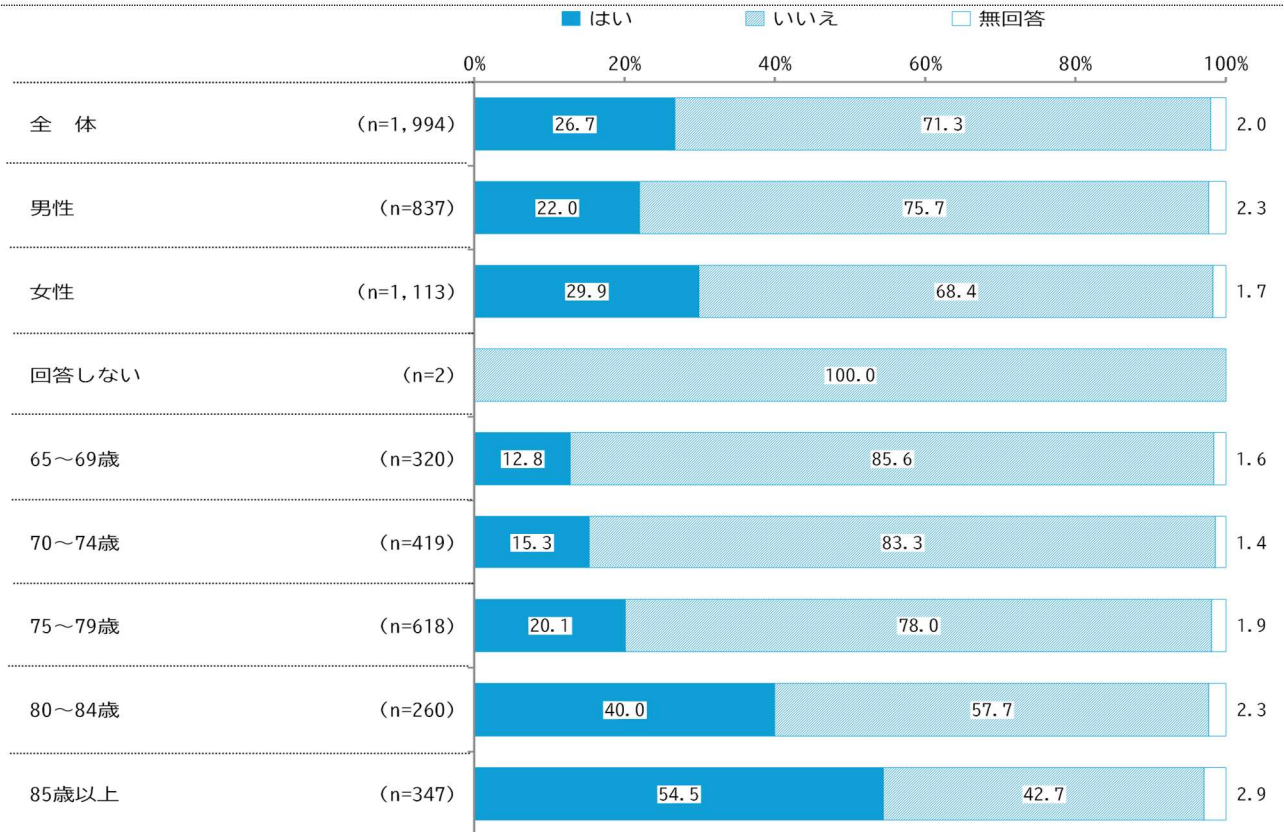
- 訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、夜間対応型訪問介護、訪問型サービス（総合事業））
- 小規模多機能型居宅介護
- 看護小規模多機能型居宅介護
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護



I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

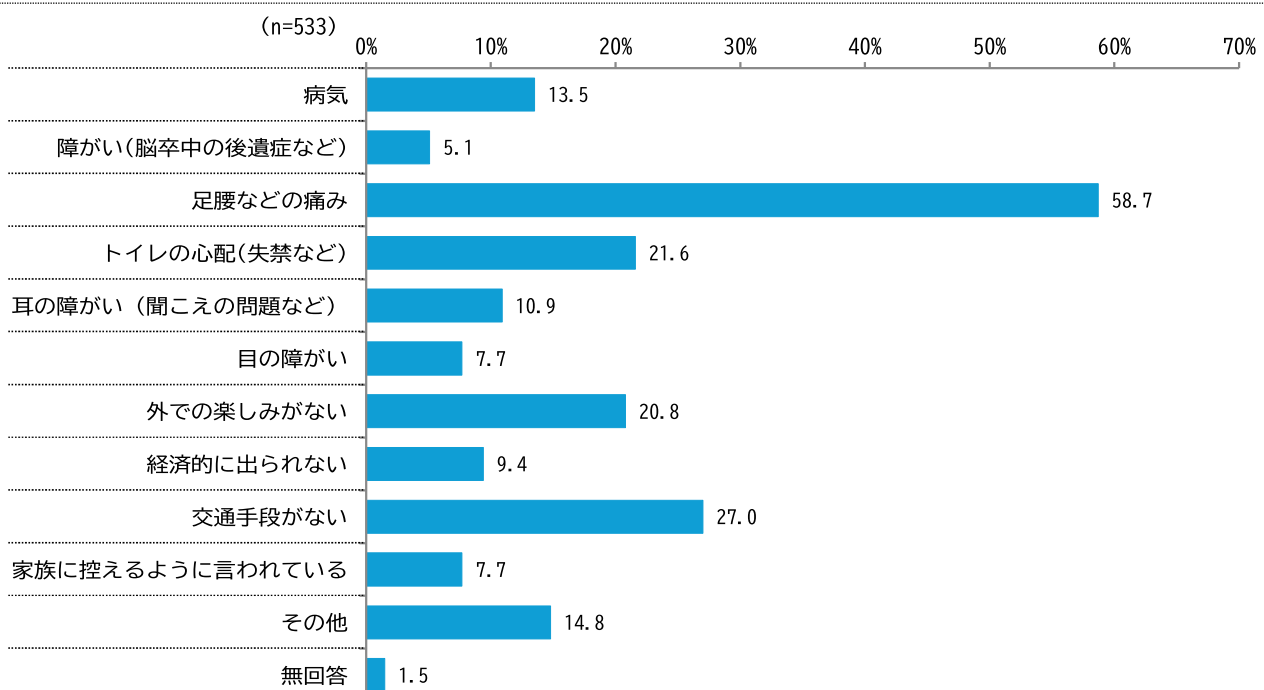
1 外出について ①外出を控えていますか。(○は1つ)

- 全体では、「いいえ」が71.3%、「はい」が26.7%となっています。
- 年齢が上がるにしたがい「はい」の割合が高くなる傾向となっており、85歳以上では「はい」が5割以上と高くなっています。



①で「はい」と回答した方にお伺いします。②外出を控えている理由は、次のどれですか。(○はいくつでも)

- 身体に悩みを抱えている方が全体の半数以上となっており、外出への機会を妨げている要因となっています。



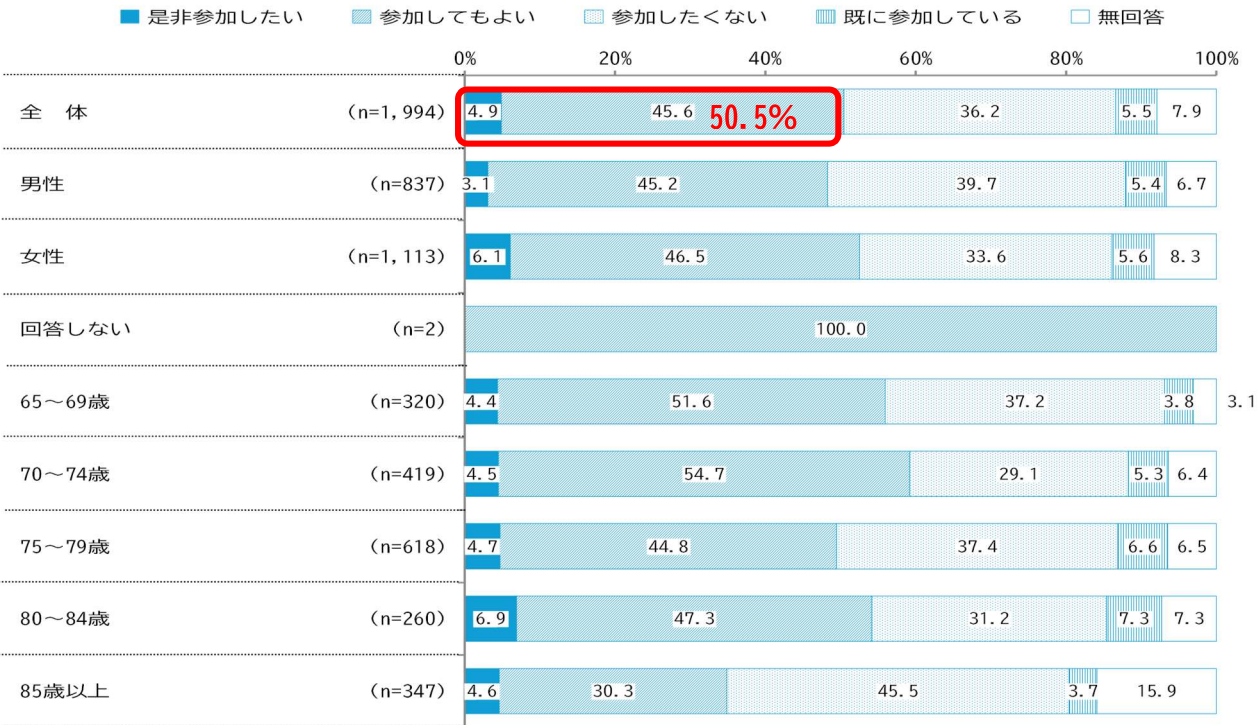
2 地域での活動について

①以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。（それぞれ○は1つ）

➤ いずれの会・グループ等にも「参加していない」割合が高くなっています。「参加していない」以外でみると、1 番高い参加率は⑦町内会・自治会の 32.7%となっています。

	全 体	「年 週 に 4 数 回 以上」 の 計	週 4 回 以上	週 2 〜 3 回	週 1 回	月 1 〜 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
	上段:実数 下段:(%)								
①ボランティアのグループ	1994 100.0	13.6%	11 0.6	24 1.2	42 2.1	94 4.7	100 5.0	1317 66.0	406 20.4
②スポーツ関係のグループやクラブ	1994 100.0	22.6%	55 2.8	148 7.4	90 4.5	107 5.4	50 2.5	1160 58.2	384 19.3
③趣味関係のグループ	1994 100.0	26.3%	27 1.4	77 3.9	101 5.1	218 10.9	99 5.0	1096 55.0	376 18.9
④学習・教養サークル	1994 100.0	9.3%	6 0.3	17 0.9	31 1.6	71 3.6	58 2.9	1371 68.8	440 22.1
⑤「まちかど運動教室」や「高齢者サ ロン」など介護予防のための通いの場	1994 100.0	16.9%	17 0.9	67 3.4	100 5.0	106 5.3	45 2.3	1300 65.2	359 18.0
⑥老人クラブ	1994 100.0	5.0%	2 0.1	11 0.6	12 0.6	34 1.7	40 2.0	1464 73.4	431 21.6
⑦町内会・自治会	1994 100.0	32.7%	5 0.3	13 0.7	17 0.9	105 5.3	508 25.5	941 47.2	405 20.3
⑧収入のある仕事	1994 100.0	23.5%	243 12.2	133 6.7	20 1.0	27 1.4	44 2.2	1128 56.6	399 20.0

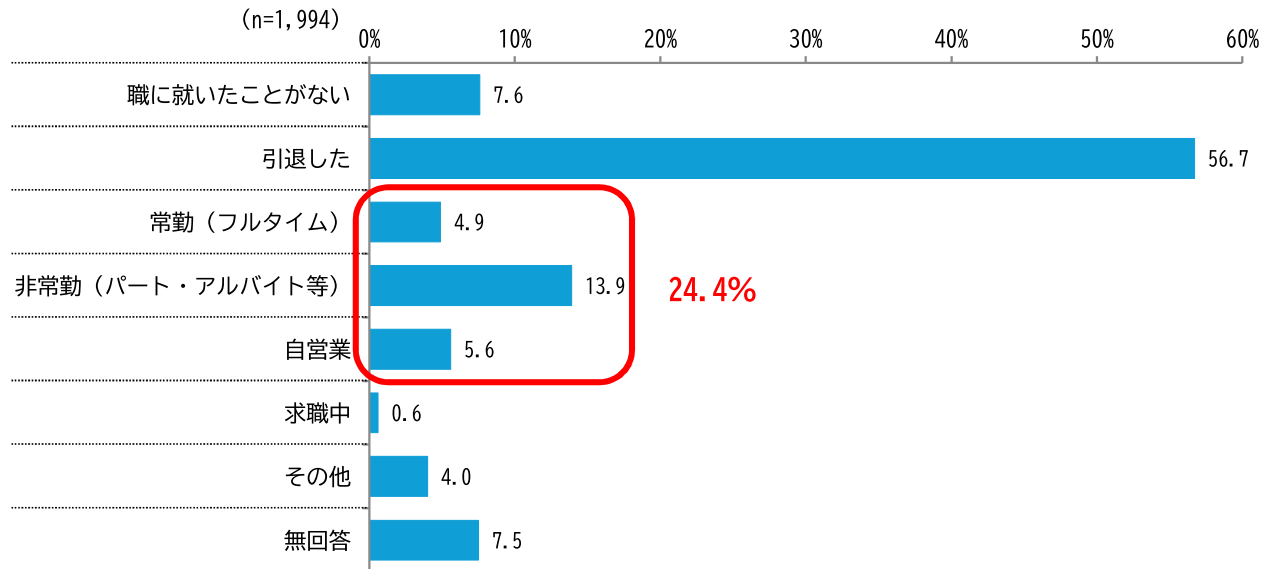
②地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたは参加者として参加してみたいと思いますか。（○は1つ）



3 就労について

①現在のあなたの就労状態はどれですか。(〇はいくつでも)

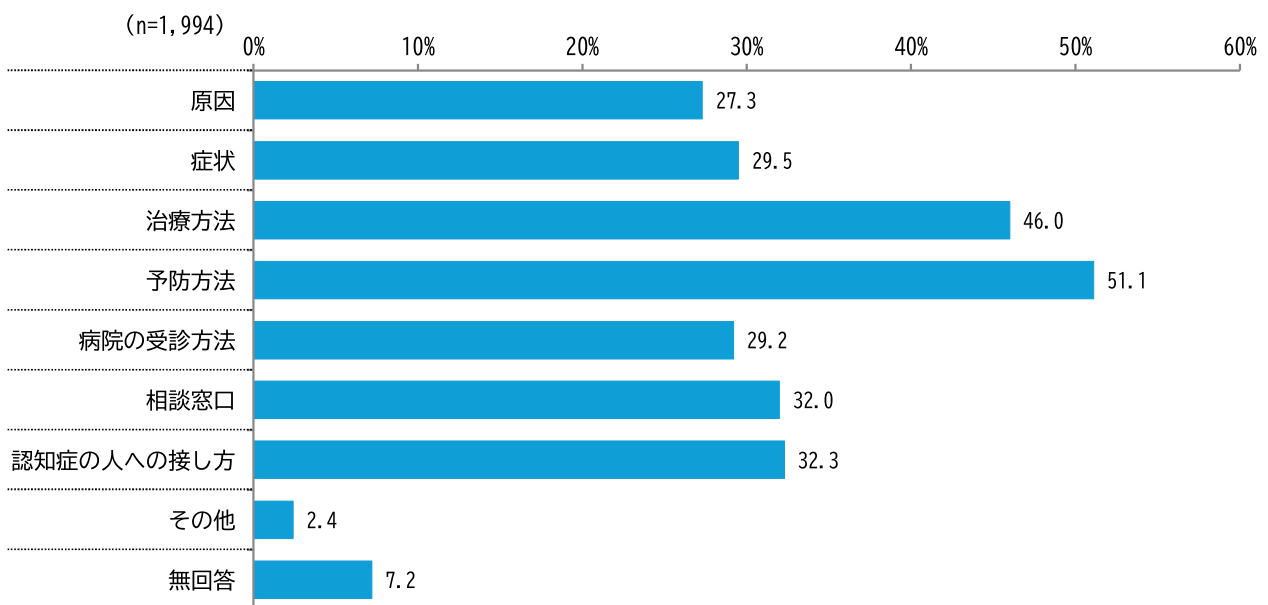
- 全体では、「引退した」が 56.7%で最も高く、次いで「非常勤(パート・アルバイト等)」が 13.9%、「職に就いたことがない」が 7.6%となっています。



4 認知症について

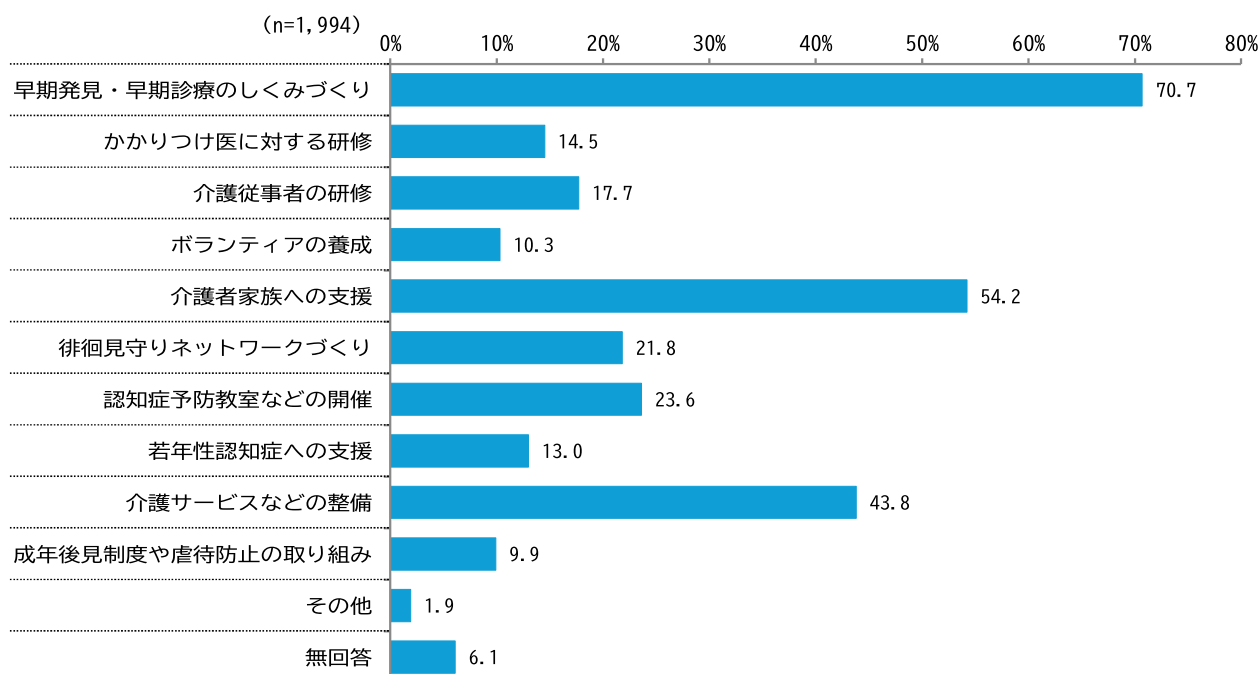
①認知症についてどのようなことを知りたいですか。(〇はいくつでも)

- 全体では、「予防方法」が 51.1%で最も高く、次いで「治療方法」が 46.0%、「認知症の人への接し方」が 32.3%となっています。



②今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことを最も重点に置く必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

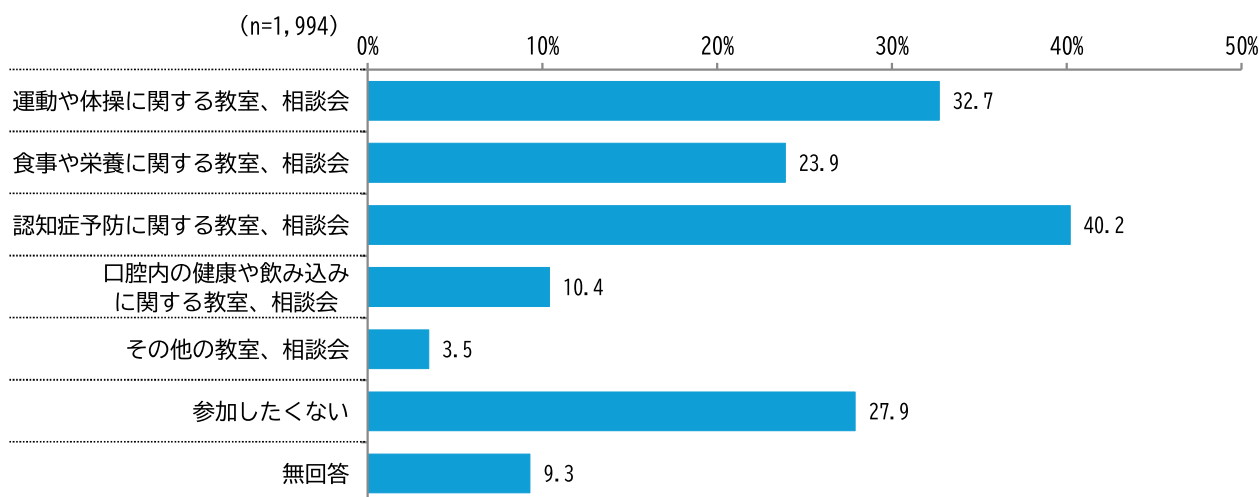
- 全体では、「早期発見・早期診療のしくみづくり」が70.7%で最も高く、次いで「介護者家族への支援」が54.2%となっています。また「介護サービスなどの整備」も4割以上となっています。



5 介護予防について

①市では様々な介護予防教室を開催しています。どんな内容の教室、相談会に参加してみたいですか。(〇はいくつでも)

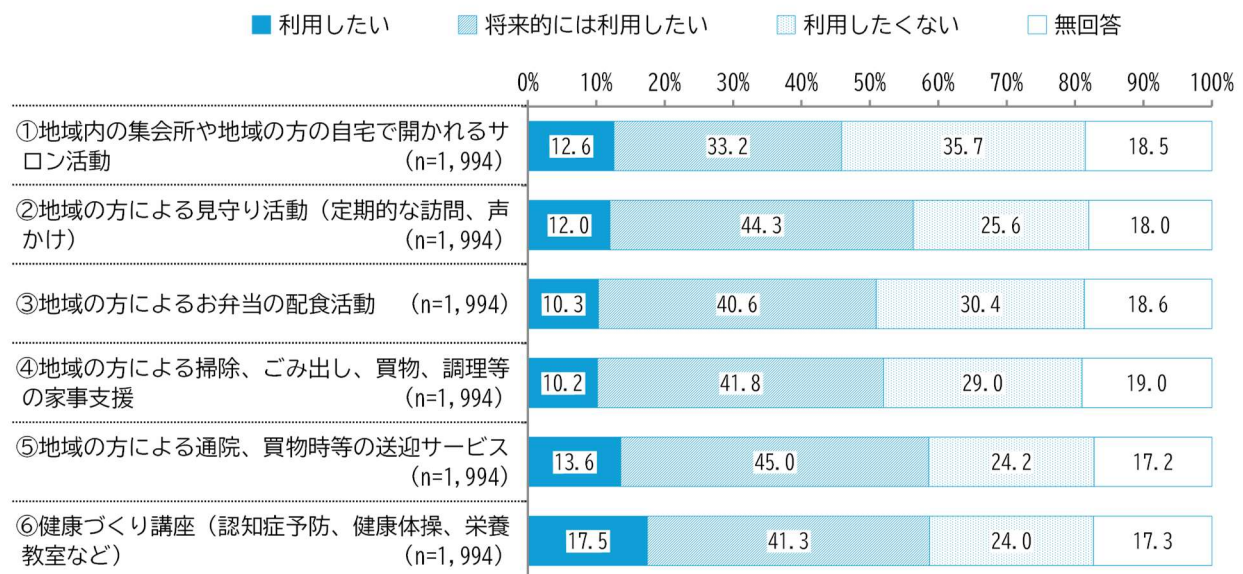
- 全体では、「認知症予防に関する教室、相談会」が40.2%で最も高く、次いで「運動や体操に関する教室、相談会」が32.7%、「参加したくない」が27.9%となっています。抵抗感がある方が一定数は見えることが分かります。



6 地域での支え合い活動について

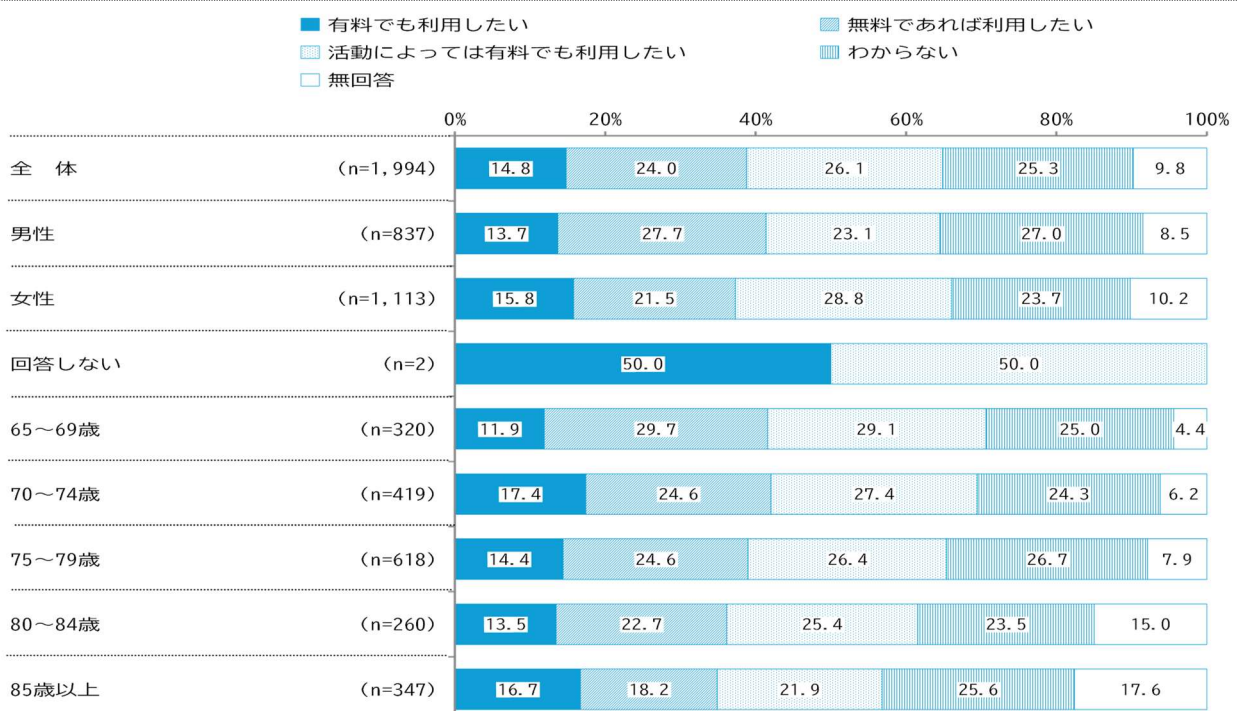
①お住まいの地域に次のような活動があった場合、利用してみたいですか。（それぞれ○は1つ）

- ①地域内の集会所や地域の方の自宅で開かれるサロン活動では、「利用したくない」が35.7%で最も高く、次いで「将来的には利用したい」が33.2%となっています。その他の活動では、「将来的には利用したい」が最も高く、次いで「利用したくない」となっています。⑥健康づくり講座（認知症予防、健康体操、栄養教室など）「利用したい」が約2割と他の活動と比べて高くなっています。



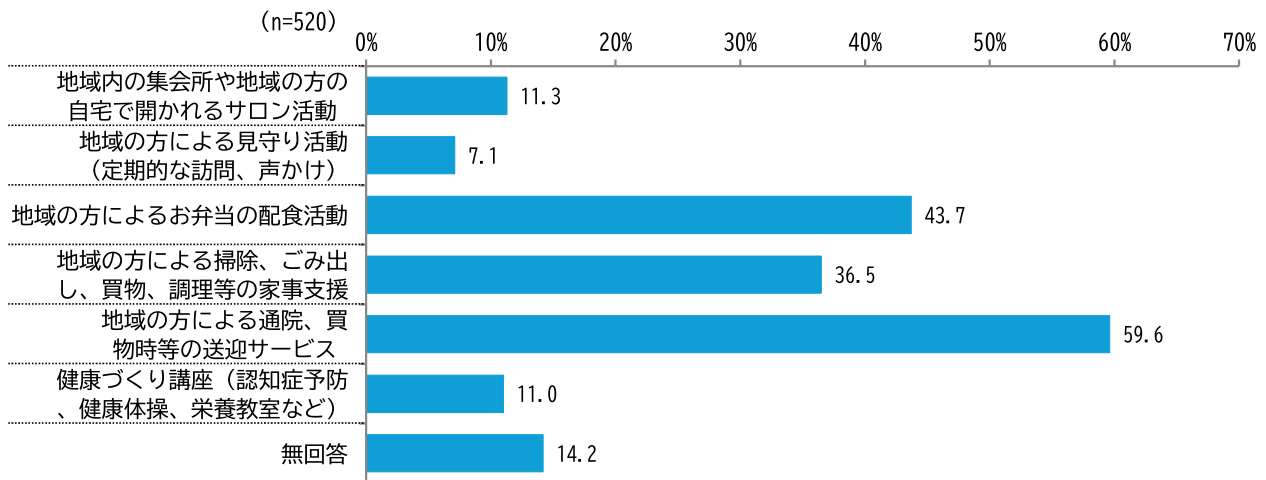
②「①サロン活動～⑥健康づくり講座」のような地域での支え合い活動を利用する際の利用料について、どう思われますか。（○は1つ）

- 全体では、「活動によっては有料でも利用したい」が26.1%、「わからない」が25.3%となっています。
 ➤ 年齢別でみると、65～69歳では「無料であれば利用したい」が約3割と他の年齢と比べて高くなっています。



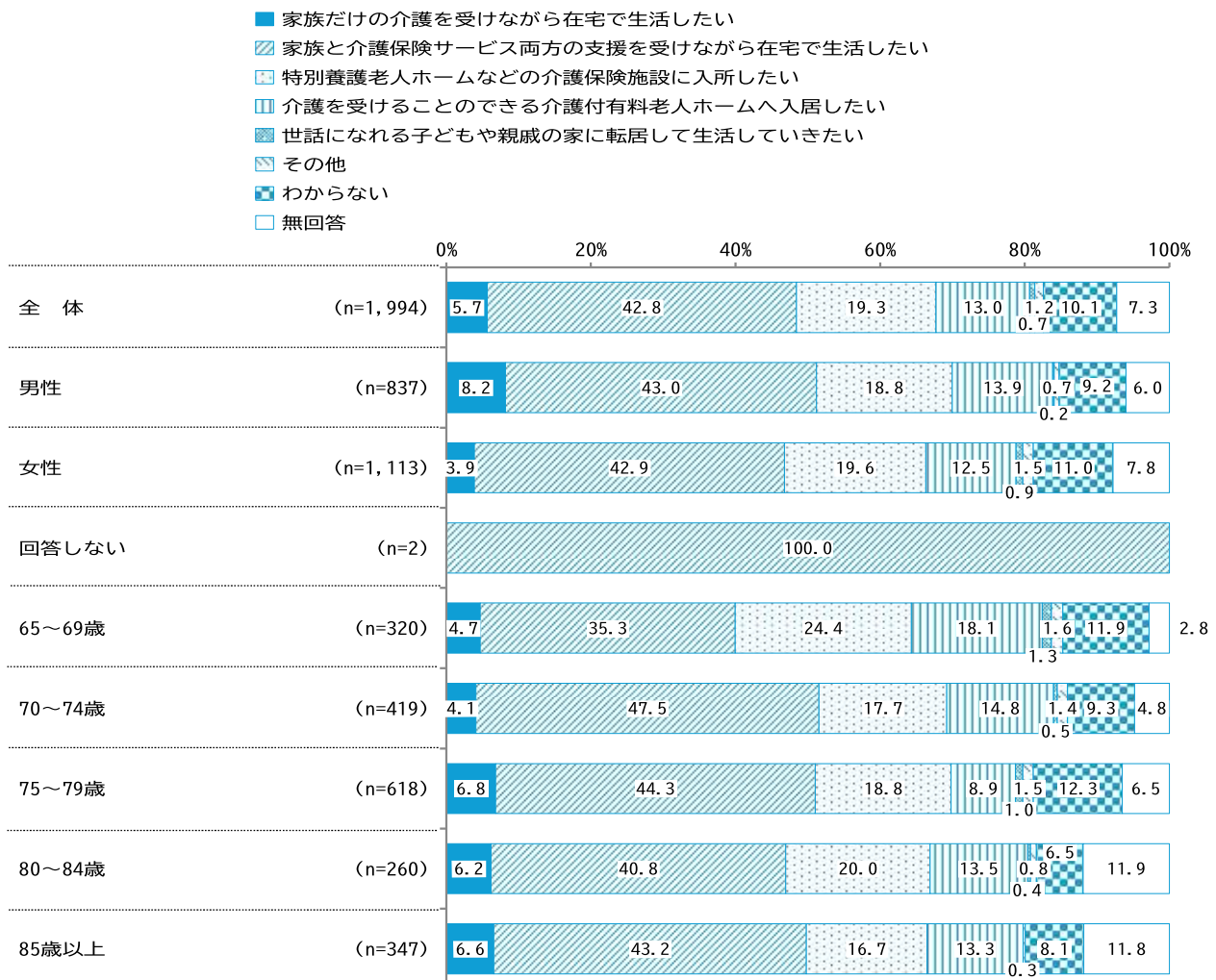
②で「活動によって有料でも利用したい」と回答した方にお伺いします。③有料で利用したいと思う活動

- 全体では、「地域の方による通院、買物時等の送迎サービス」が 59.6%で最も高く、次いで「地域の方によるお弁当の配食活動」が 43.7%となっています。



7 介護サービスの利用について

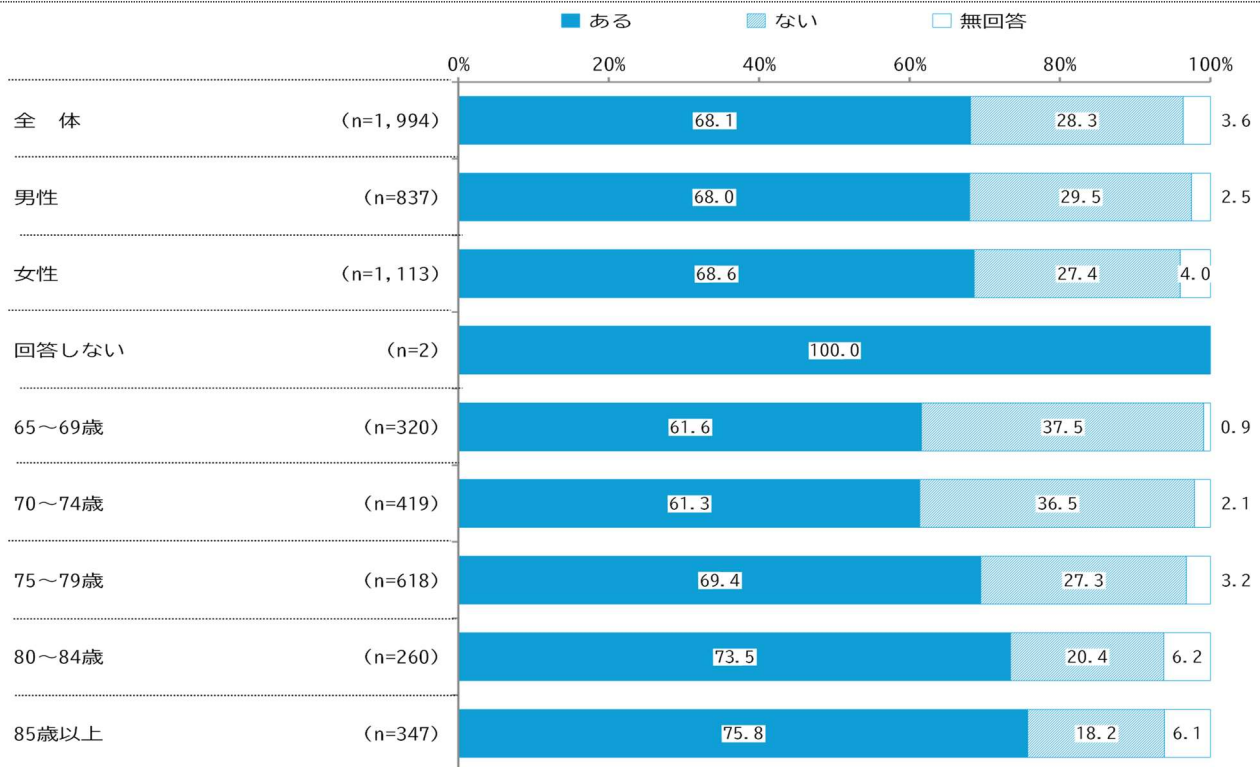
①仮に介護が必要となった場合、その後の生活をどのように考えていますか。(〇は1つ)



8 医療について

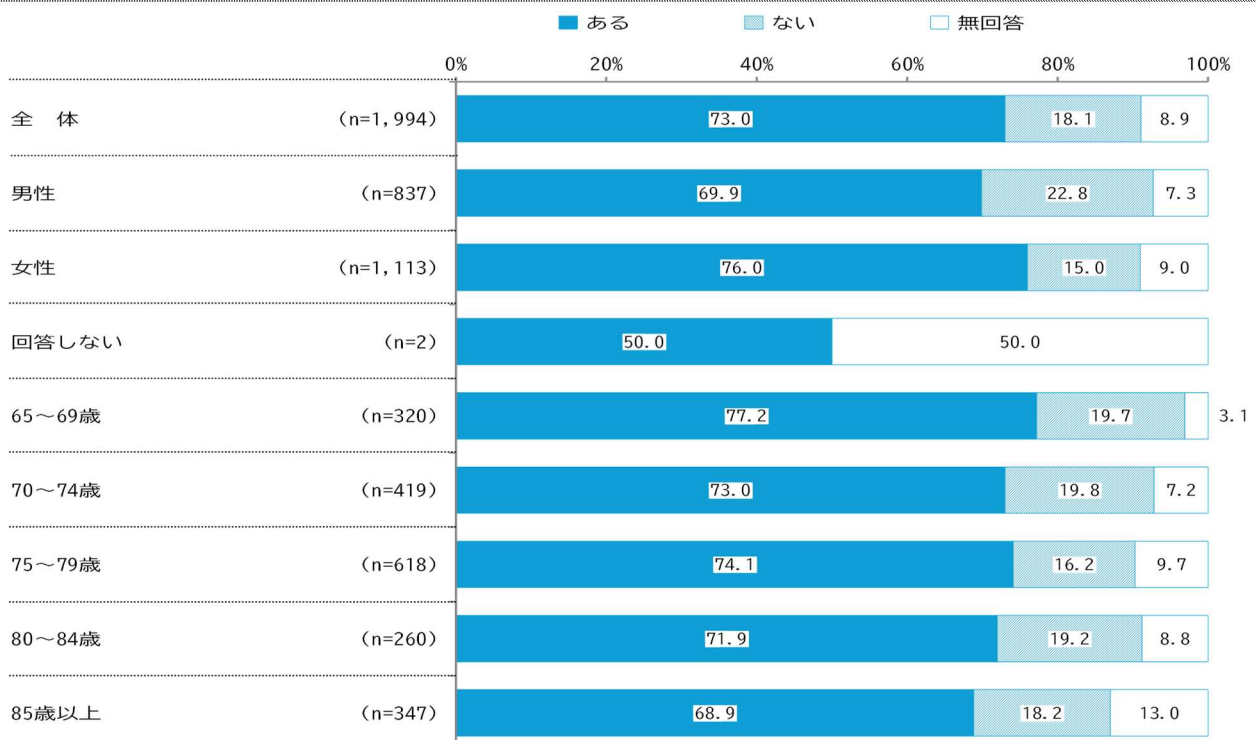
①病気の時に気軽に相談できる医療機関（かかりつけ医）がありますか。（〇は1つ）

➤ 年齢別でみると、年齢が上がるにしたがい「ない」の割合が低くなる傾向となっています。



②歯や口腔ケアについて気軽に相談できる歯科医院（かかりつけ歯科医）がありますか。（〇は1つ）

➤ 年齢別でみると、いずれの年齢でも「ある」が約7割と高くなっていますが、年齢が上がるにしたがい「ある」の割合が低くなる傾向となっています。

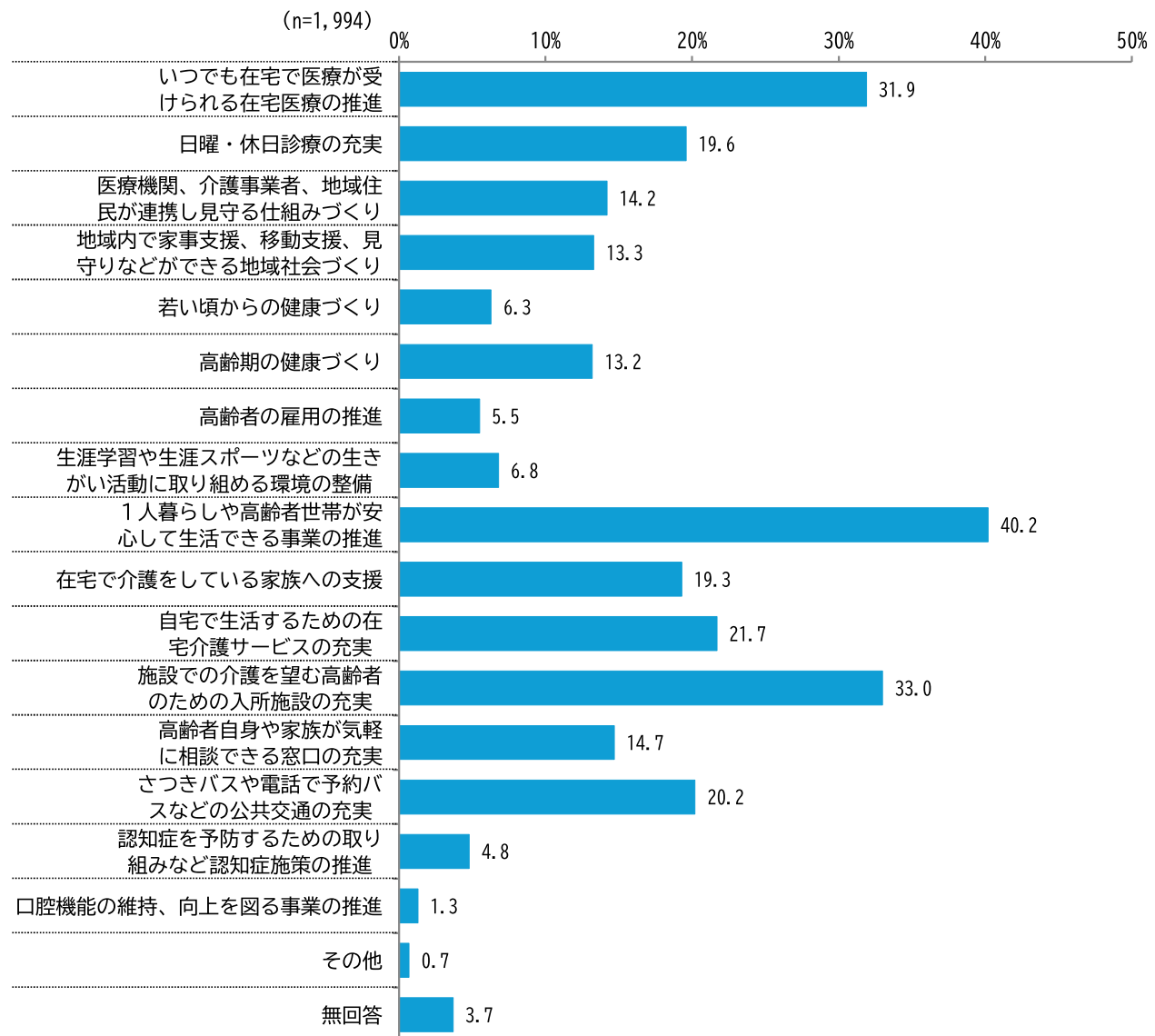


9 高齢者施策について

①今後、高齢化が進行していく中で、市の高齢者施策で重点を置くべき項目は何だと思いますか。

(〇は3つまで)

- 全体では、「1人暮らしや高齢者世帯が安心して生活できる事業の推進」が 40.2%で最も高く、次いで「施設での介護を望む高齢者のための入所施設の充実」が 33.0%、「いつでも在宅で医療が受けられる在宅医療の推進」が 31.9%となっています。

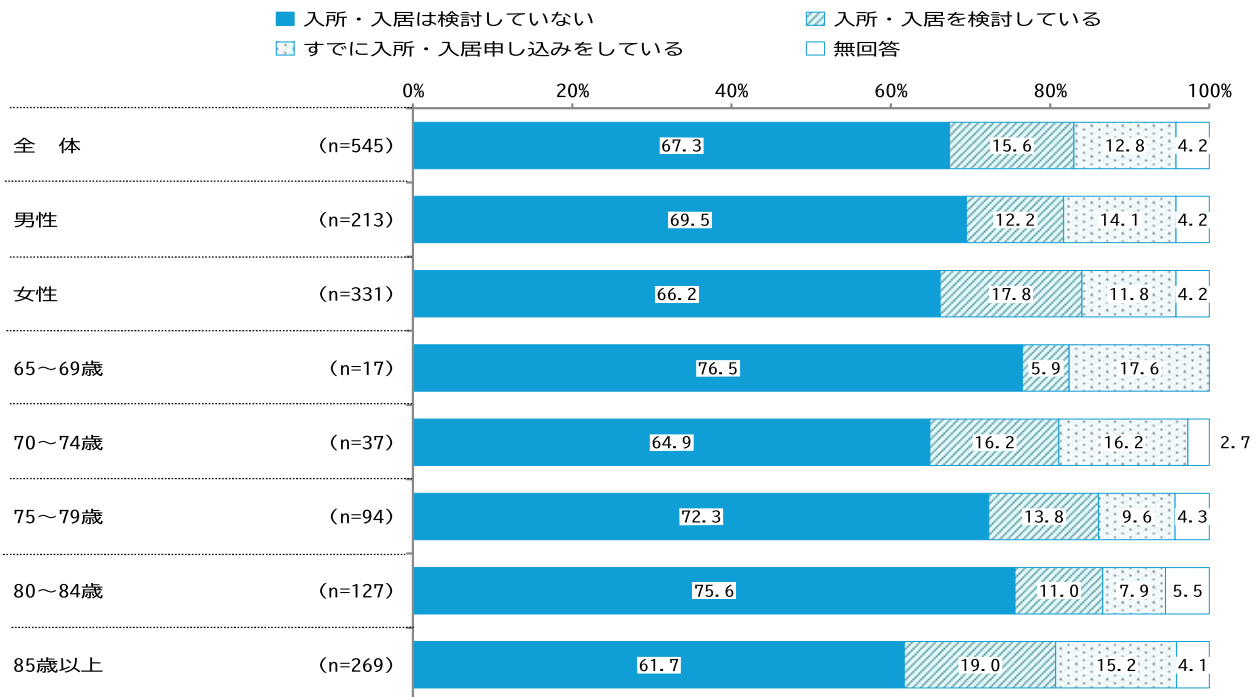


Ⅱ 在宅介護実態調査

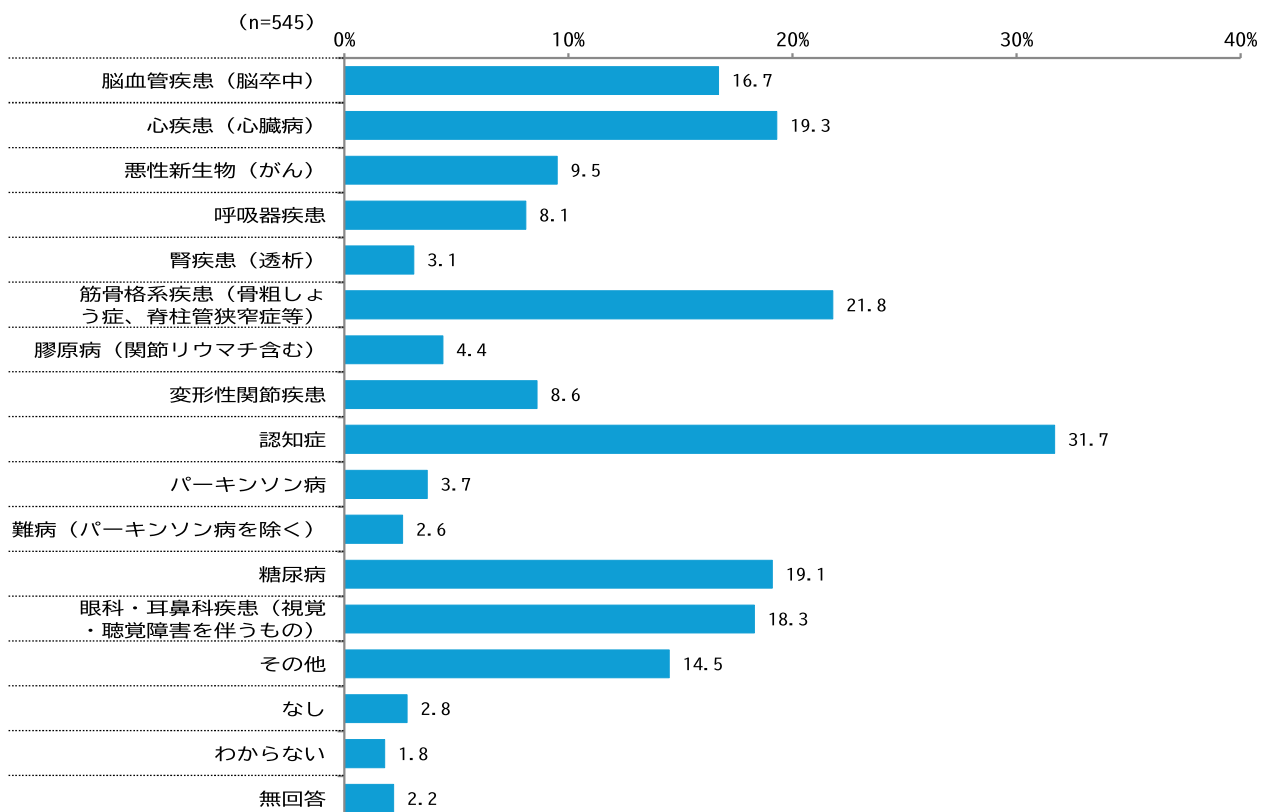
A票 調査対象者ご本人について

①現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（○は1つ）

- ▶ 全体では、「入所・入居は検討していない」が67.3%、「入所・入居を検討している」が15.6%となっています。
- ▶ 年齢別でみると、85歳以上では「入所・入居を検討している」が約2割となっています。

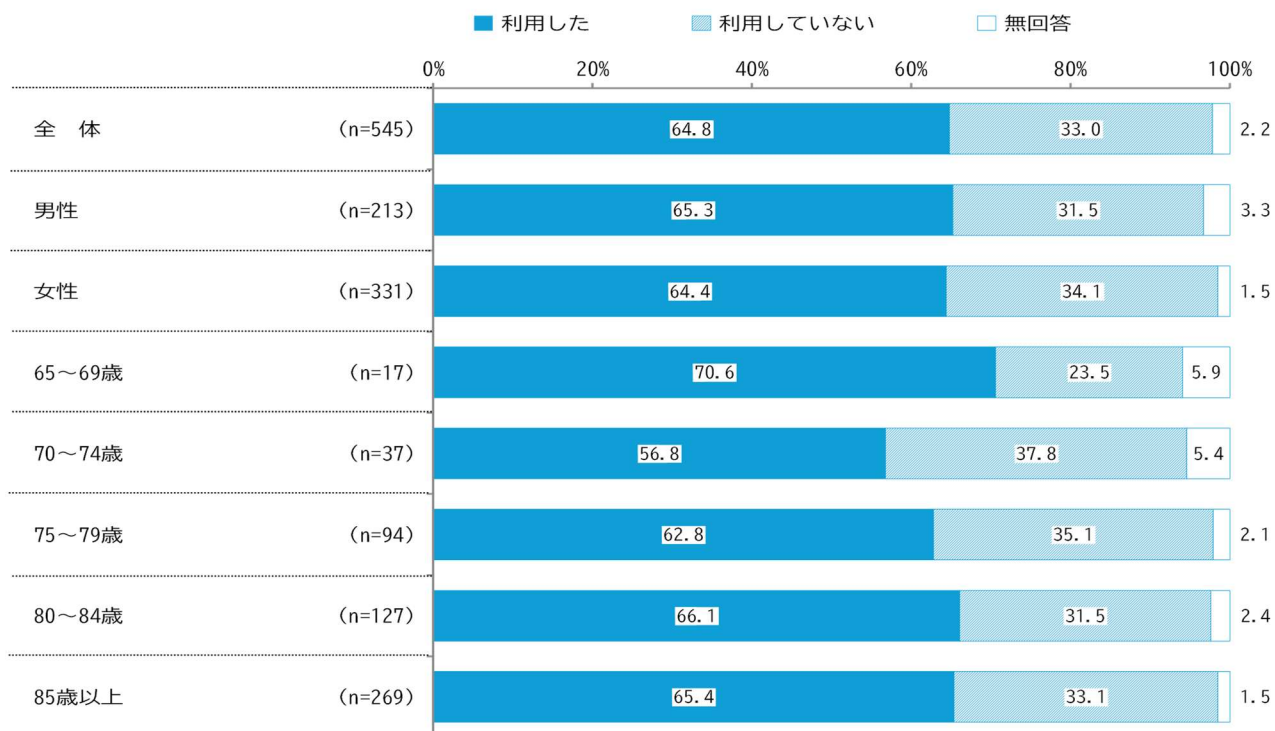


②ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。（○はいくつでも）



③令和7年12月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか。（○は1つ）

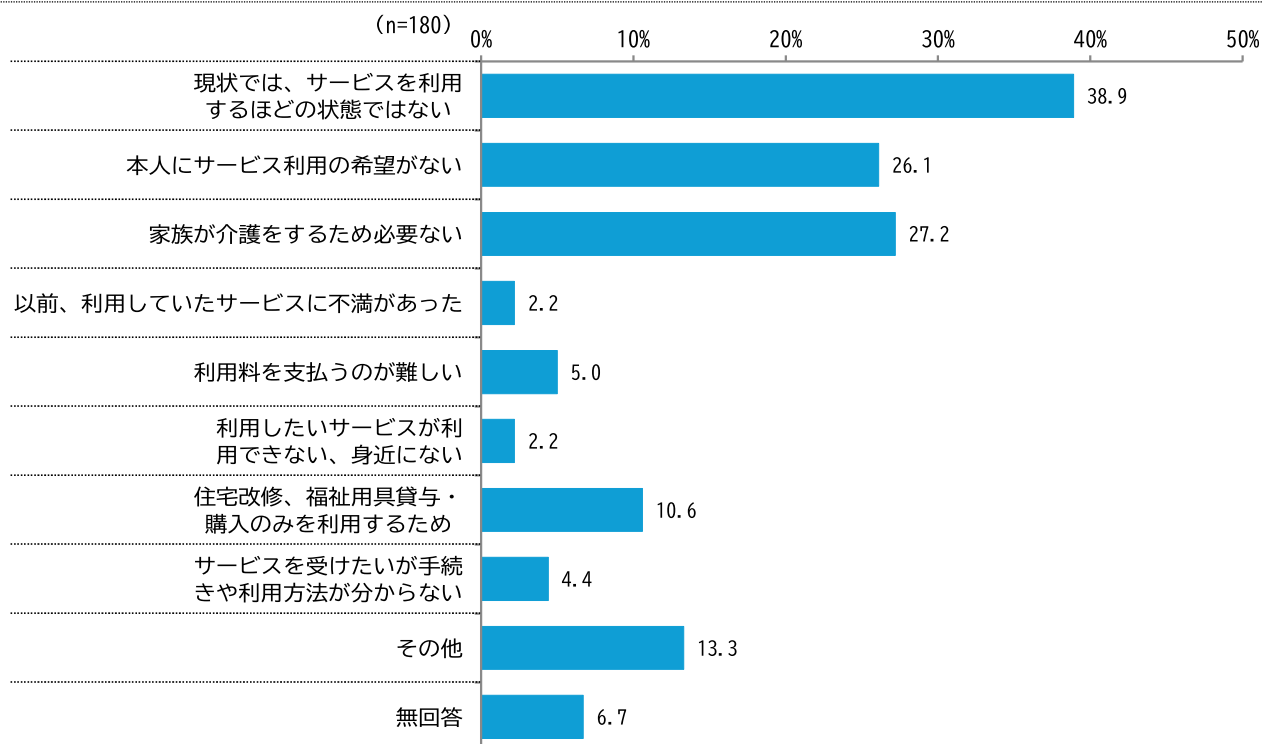
➤ 全体では、「利用した」が64.8%、「利用していない」が33.0%となっています。



③で「利用していない」と回答した方にお伺いします。

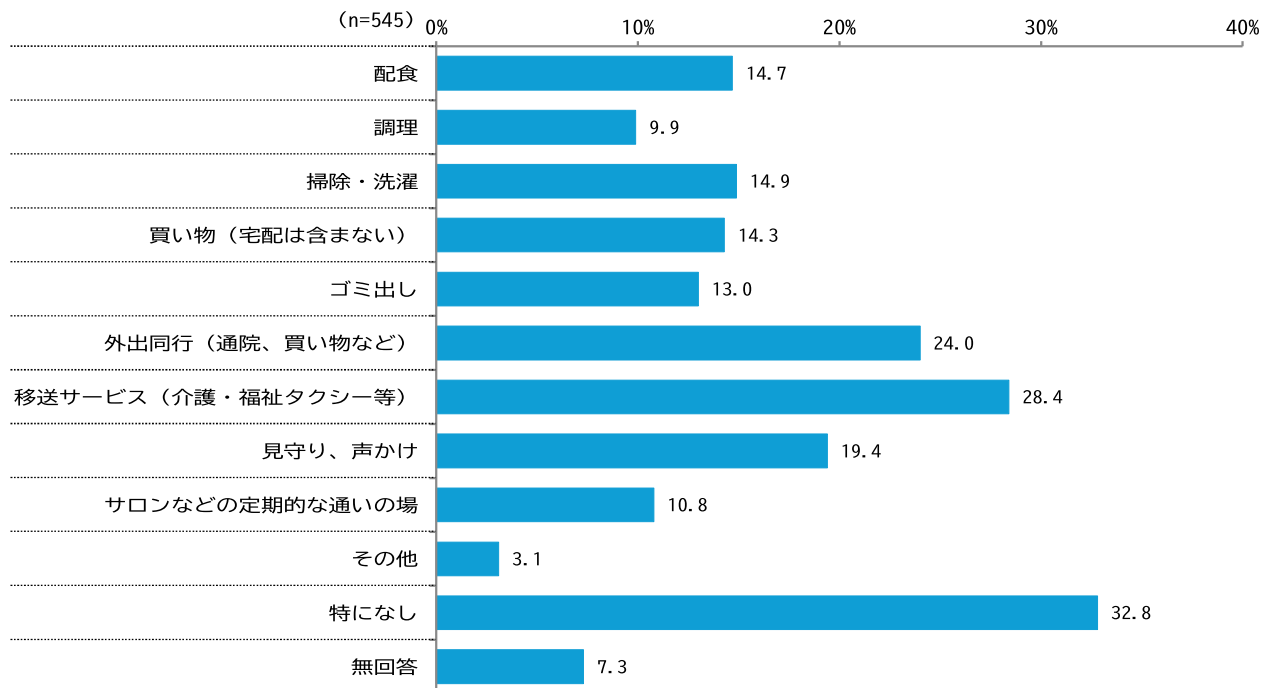
④介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

➤ 全体では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が38.9%で最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が27.2%、「本人にサービス利用の希望がない」が26.1%となっています。



⑤今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（〇はいくつでも）

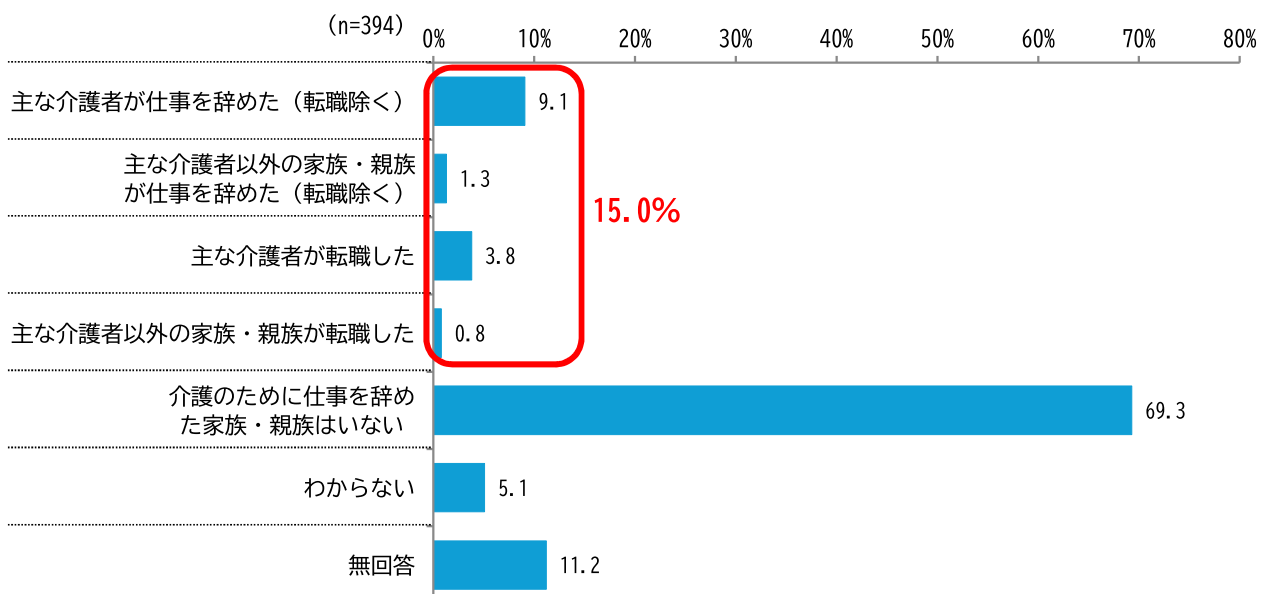
- 全体では、「特になし」が 32.8%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 28.4%、「外出同行（通院、買い物など）」が 24.0%となっています。



B票 主な介護者について

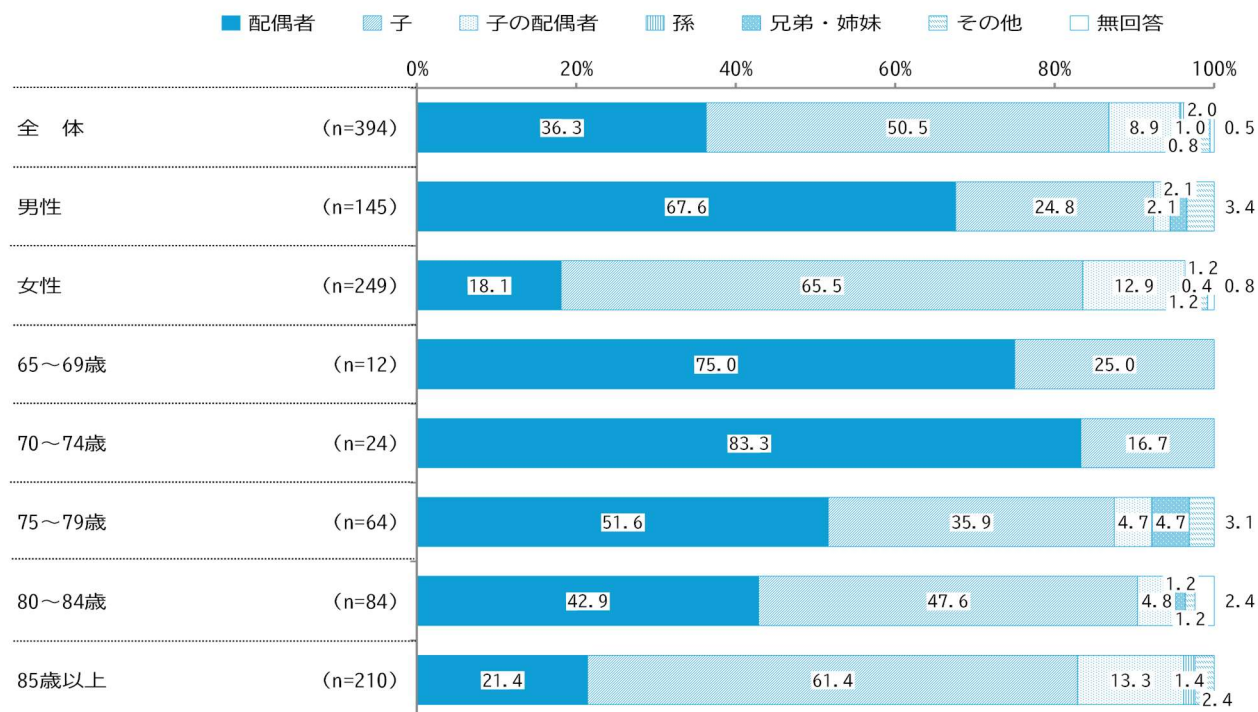
①ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。（〇はいくつでも）

- 全体では、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 69.3%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 9.1%、「わからない」が 5.1%となっています。



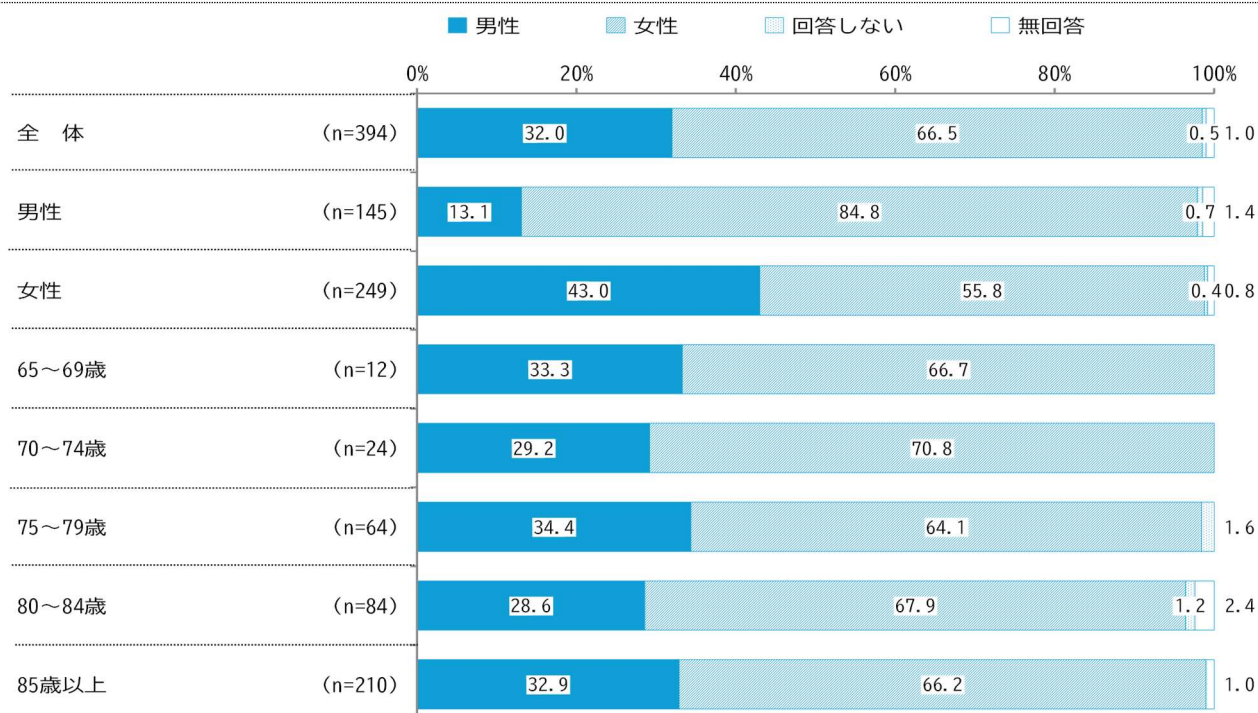
②主な介護者の方は、どなたですか。(〇は1つ)

- 全体では、「子」が50.5%で最も高く、次いで「配偶者」が36.3%、「子の配偶者」が8.9%となっています。
- 性別でみると、男性では「配偶者」が67.6%で最も高く、次いで「子」が24.8%、女性では「子」が65.5%で最も高く、次いで「配偶者」が18.1%となっています。



③主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(〇は1つ)

- 全体では、「女性」が66.5%、「男性」が32.0%となっています。

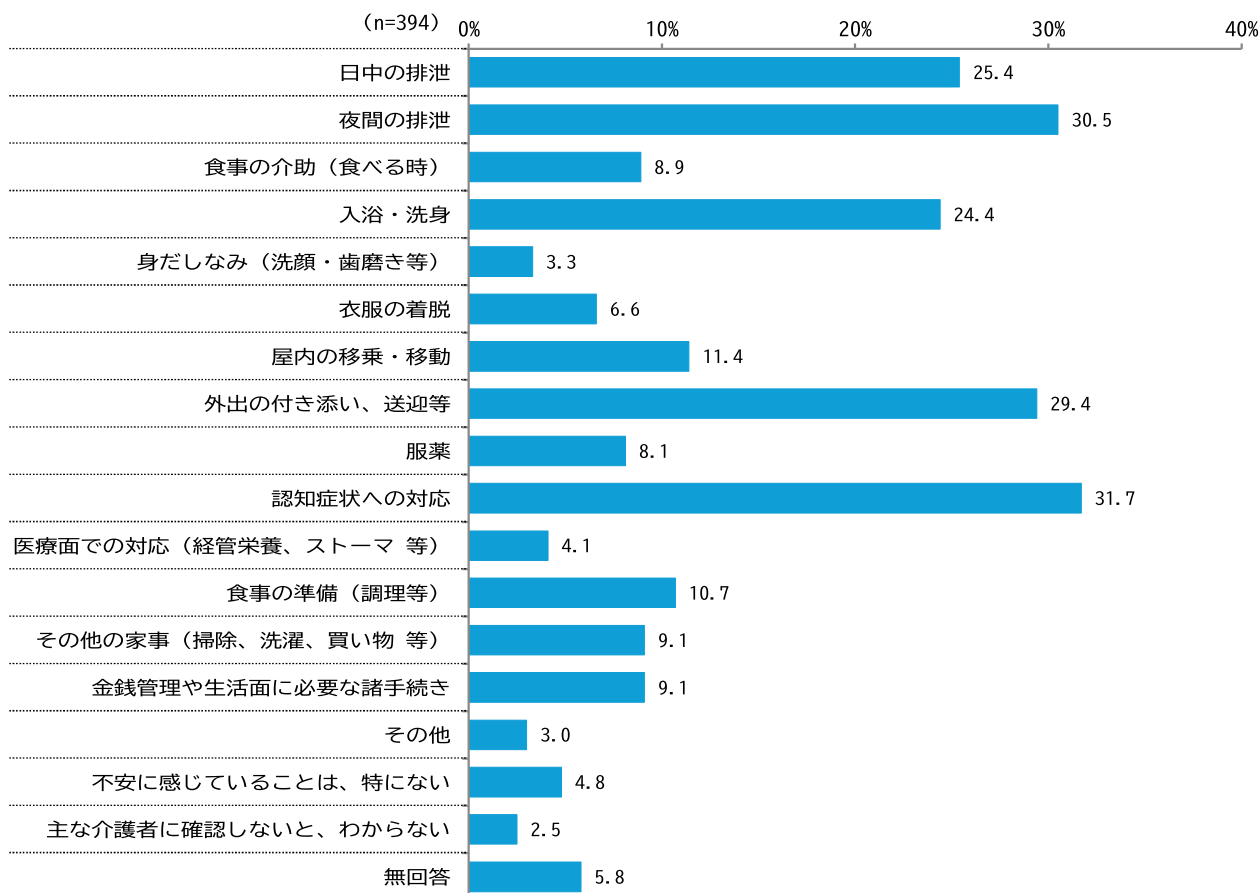


④主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(〇は1つ)

- 全体では、「60代」が32.2%で最も高く、次いで「70代」が21.3%、「50代」が20.3%となっています。
- 年齢別でみると、75～79歳では「70代」、80～84歳では「50代」、85歳以上では「60代」が最も高くなっています。



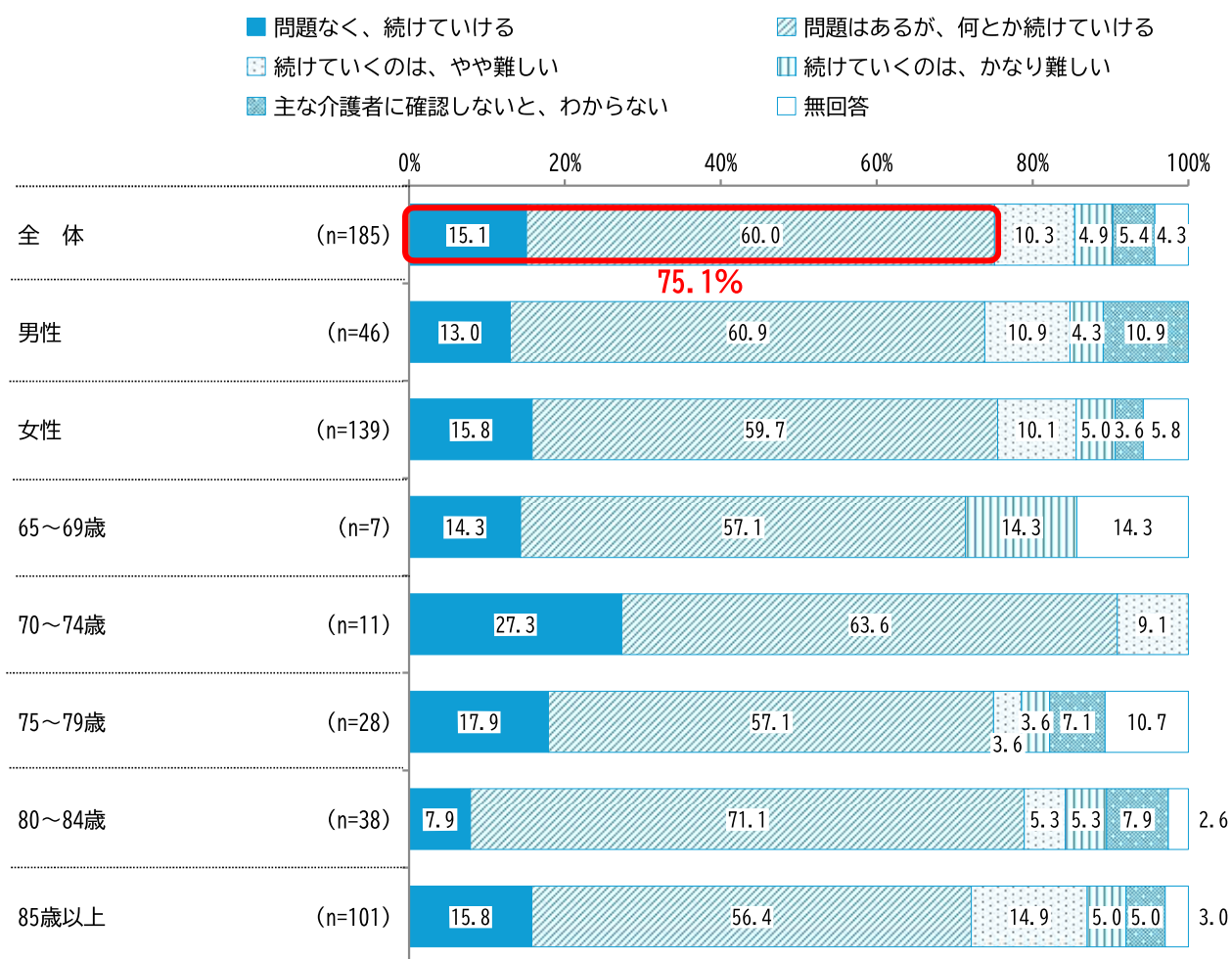
⑤現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。(〇は3つまで)



主な介護者の方の現在の勤務形態について「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。

⑥主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(〇は1つ)

- 全体では、「問題はあるが、何とか続けていける」が60.0%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.1%、「続けていくのは、やや難しい」が10.3%となっています。
- 性別でみると、男性、女性ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が約6割で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」となっています。
- 年齢別でみると、80～84歳では「問題はあるが、何とか続けていける」が7割以上と高くなっています。



Ⅲ 介護人材実態調査

1 事業所票（訪問系／施設・通所系）

令和8年1月1日時点で、開設から1年以上を経過している事業所にお伺いします。

①過去1年間（令和7年1月1日～令和7年12月31日）の介護職員の採用者数と離職者数を、常勤・非常勤別にご記入ください。外国人人材も含めてご回答ください。（数値を記入）

➤ 採用者数は常勤職員、非常勤職員ともに「0人」「1～4人」が多くそれぞれ4割以上となっています。

採用者数

				採用者の人数別割合（％）				
		数 回 答 事 業 者 （ 件 ）	合 計 （ 人 ）	0 人	1 ～ 4 人	5 ～ 9 人	10 ～ 49 人	無 回 答
常勤職員	訪問系	10	10	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	施設系	22	26	40.9	54.5	4.5	0.0	0.0
	通所系	18	19	44.4	44.4	5.6	0.0	5.6
非常勤職員	訪問系	10	15	50.0	40.0	10.0	0.0	0.0
	施設系	22	22	54.5	40.9	4.5	0.0	0.0
	通所系	18	15	50.0	44.4	0.0	0.0	5.6

➤ 離職者数は常勤職員、非常勤職員ともに「0人」「1～4人」が多くなっています。

➤ 常勤職員では【通所系】の「1～4人」が66.7%とやや高く、「0人」が27.8%とやや低くなっています。

➤ 非常勤職員では【施設系】の「1～4人」が31.8%とやや低くなっています。また、【訪問系】【施設系】で「5～9人」が2割となっています。

離職者数

				離職者の人数別割合（％）			
		数 回 答 事 業 者 （ 件 ）	合 離 計 職 （ 人 ） 者 数	0 人	1 ～ 4 人	5 ～ 9 人	無 回 答
常勤職員	訪問系	10	10	40.0	60.0	0.0	0.0
	施設系	22	23	40.9	59.1	0.0	0.0
	通所系	18	15	27.8	66.7	0.0	5.6
非常勤職員	訪問系	10	23	40.0	40.0	20.0	0.0
	施設系	22	36	50.0	31.8	18.2	0.0
	通所系	18	14	44.4	50.0	0.0	5.6

②採用や人材定着に関する課題をご回答ください。(自由記述)

※いただいたご意見を集約し、一部抜粋して掲載しています。文意を変えない程度に表現を修正している場合があります。

【訪問系】

訪問系の自由記述は以下の4件となっています。

自由回答
介護職の希望が少ない。
年齢の若い方からの応募が少ない。
人材に係るコストが高く、利益が出にくい為事業として継続するメリットが減少しています。人材をデータ化して公共的に利用できるようにして、採用に際する時間を短縮した方がいいと思います。特に同じようにトラブルを起こしている人や精神的に問題がある人は、時間を無駄にするだけになってしまいますし、その人達も治療などへ促した方がいい場合もあると思います。
職員の処遇が大きな課題です。

【施設・通所系】

施設・通所系の自由記述は「求人について」が4件「賃金」が2件、「その他」が4件となっています。

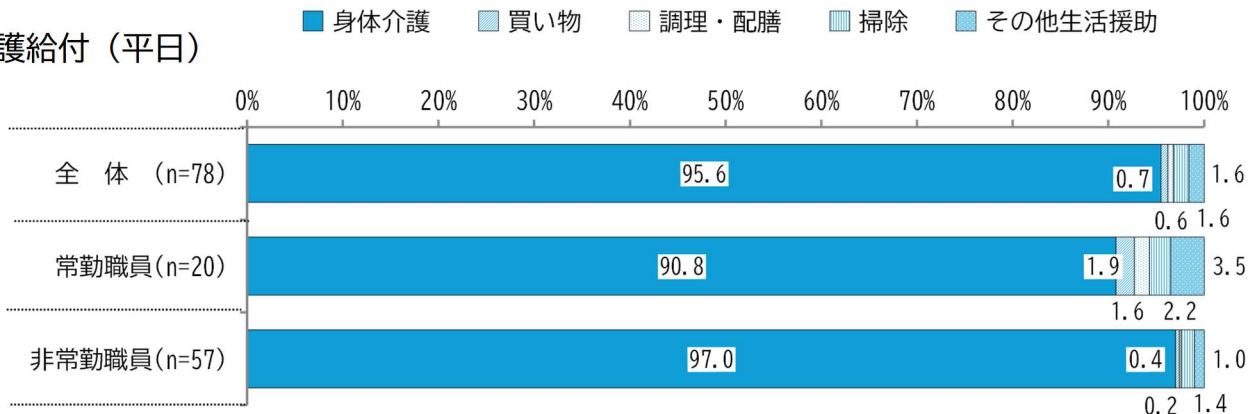
内容	自由回答
求人について	オープンに際して一般の介護職員(初任者研修・実務者研修・介護福祉士)採用には苦労しなかったが、機能訓練指導員や看護師には条件面含めて苦労しました。
	ハローワークを通じて採用に至るケースが少ない。人材紹介会社を通じての採用が多く、紹介料の負担が大きい。
	紹介会社を通じた採用は入職に多額の費用がかかる。介護施設の転職を繰り返している方が多い事や 50 代以上、未経験者の正職員を希望者の紹介会社からの紹介等は採用に結びつけられないケースも多い。
	人材紹介会社を介しての採用にお金がかかる。
賃金	給与、賃金が高業種に比べて上げられなく新規採用、離職が課題
	職員一人に対しての業務負担が大きい割には、賃金が安い。
その他	介護人材の採用については、依然確保が困難な状況が続いている。数少ない介護人材ができるだけ長く現場で勤務できるよう、働く環境の整備が重要と考える。
	職種の関係があるかもしれないが、慣れたと思ったらやめる職員もいて落ち着かない。新しい人に教える余裕の人員がいらないため、指導をする職員が疲弊しやすいのがあります。職員を雇える人数にも限界があり(人件費率が高くなるため)制度上の問題があるようにも思います。
	介護職員からのシフト希望に対応することが課題である。
	人材育成におけるコミュニケーションの重要性

2 職員票（訪問系）

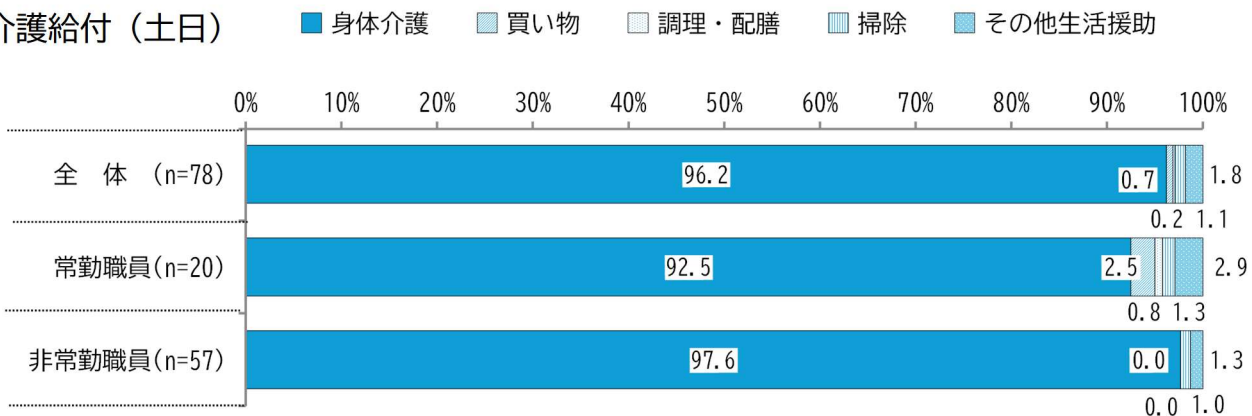
①過去1週間の勤務時間」で回答した7日間の勤務時間について、身体介護・生活援助を提供した時間（分）を記入してください。

➤ 介護給付では平日・土日の、全体・常勤職員・非常勤職員ともに「身体介護」が約9割となっています。

介護給付（平日）

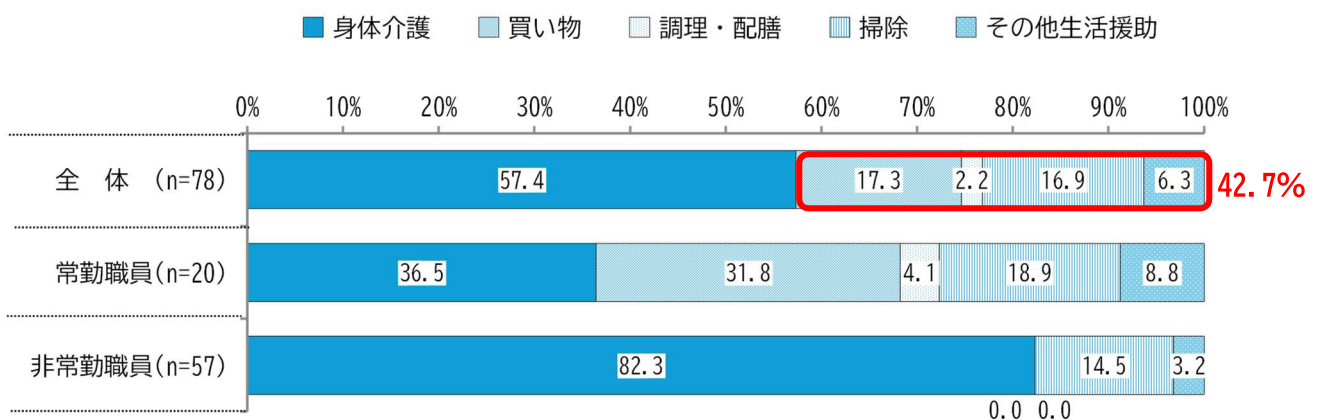


介護給付（土日）



介護予防給付・総合事業（平日）

- 全体では、「身体介護」が57.4%で最も高く、次いで「買い物」が17.3%、「掃除」が16.9%となっています。
- 常勤職員では、「身体介護」が36.5%で最も高く、次いで「買い物」が31.8%、「掃除」が18.9%となっています。
- 非常勤職員では、「身体介護」が82.3%で最も高く、次いで「掃除」が14.5%となっています。



介護予防給付・総合事業（土日）

※身体介護1名60分、掃除1名60分となっています。